

☆ きんひが通信

令和元年9月6日
〈第20号〉
校長 平塚智康

防災週間にあたって ～9月9日は大聖寺大火の日～

大正12年9月1日は、関東大震災の起こった日であり、現在9月1日は「防災の日」とされています。大聖寺は、昭和9年9月9日に大火に見舞われ、錦城小学校をはじめとした大聖寺町内402戸の家が焼失しました。（ちなみに私の実家も全焼しました。もちろん私の生まれる前ですが。）

私は、錦城小学校出身ですが、錦城小には、現在も鶴のお墓（動物慰霊碑）というのがあり、毎年9月9日には、全校集会を開き、この大火で死んでしまった、学校で飼っていた動物たちの慰霊を行うとともに、防災について先生の訓話を聞いたことを、今でも覚えています。

当時、錦城小では、中庭の飼育小屋で鶴の親子を飼っていたそうです。火事が錦城小にも飛び火し、当時の小学校の飼育担当の先生が、学校に駆けつけた時には、飼育小屋に火が回った後で、担当の先生は「中に鶴が！」と消防団に助けを懇願したけれども、間に合わなかったそうです。

鎮火後、焼けた飼育小屋から、子どもを下に覆いかくすようにした親子の鶴の焼死体が見つかったそうです。親鶴は、熱い炎から、最後まで子どもを守ろうとしたのでしょうか。

地震、水害、火事・・・毎年日本のどこかで大きな災害が起こっています。つい先日も、佐賀県など九州北部で大きな水害が起こりました。大聖寺は、昔から水害に苦しんできた町で、大雨が降ると大聖寺川がよく氾濫しました。私も高校生の時に、床下浸水を経験しました。（7月に浸水したので、その年の夏休みは、大聖寺の町中がくさかったことを覚えています。）

錦城東小学校は、県内でも数少ない防災備蓄室を備えた学校です。万が一、大聖寺に大きな災害が起こり、本校が住民の避難所になり孤立してしまった時に備えて、かんぱんや水を3階の防災備蓄室に蓄えています。防災備蓄室には、数は少ないですが、寝袋や食器も準備されています。

（次面へつづく）



〈大聖寺消火栓放水競技大会に出場してがんばった5, 6年生〉

本校の防災備蓄室のかんぱんや水は、教育後援会の予算で配備されているものであり、災害が起こった時には、東小学校を拠点にして、地域住民が自分たちの命を自分たちで守るための、一つのしくみです。

4年生は、1学期の総合の時間に、「災害」をテーマに学習していました。地震、水害、雪害などいろんな災害について調べ、防災について学習を深めていました。

5, 6年生の中には、先日行われた大聖寺消火栓放水競技大会に出場してがんばった人たちもいました。

また、1学期には、消防署の方の指導を受けながら、全校で避難訓練を行いました。シェイクアウト訓練（県民一斉防災訓練）では、「しゃがむ、かくれる、じっとする」の基本の避難動作がすばやくできました。

「天災は忘れたころにやって来る」と言います。これからも、一人一人の防災意識を高め、自分の命は自分で守れる、たくましいひがしっ子になって下さい。

加賀市児童・生徒俳句募集（山中温泉芭蕉祭全国俳句大会）

小学校参加者1475人のうち、最優秀賞（3名）に本校から、なんと2名も選ばれました。すごい！まさに「才能あり」ですね。

【最優秀賞】

☆4年生「こうていで はしりまわれる はるがきた」

春の到来を待ちわびていた、子どもらしい素直な心がよくあらわれていますね。校庭を元気に走り回るひがしっ子たちの情景が目には浮かびます。

☆5年生「雪どけや いきおい強い 用水路」

「や」（「切れ字」という）の使い方が5年生ばなれしてるね。ようやく雪がとけて、田んぼに水を張る春がやって来たことを喜ぶ気持ちが伝わってきます。勢いよく流れる用水路の様子から、春のたくましい生命力や5年生の強いやる気みたいなものを、先生は感じました。

みなさんも、自学などで、季節に応じた俳句を作ってみてはどうですか。